

科目名	自然科学1			学年	1 年 11 期生
担当者				期別	前期
単位数	2 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	医師免許を有する教員が、自然科学を講義する。				
一般目標(GIO)					
自然科学では、人体の構造と機能について概説する。自然科学1では、細胞、組織をまず学び、器官として、血液・循環器・呼吸器・消化器の解剖生理学を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	9	3	細胞	細胞の構造について説明できる。
2		16		組織1	組織の種類について説明できる。
3	5	7		組織2	組織の役割について説明できる。
4		14		血液1	血液の成分について説明できる。
5		21		血液2	血液の役割について説明できる。
6		28		血液3	血液凝固について説明できる。
7	6	4		循環器1	心臓の構造と機能について説明できる。
8		18		循環器2	血管系の構造と機能について説明できる。
9		25		循環器3	血液循環動態について説明できる。
10	7	2		呼吸器1	気管と肺の構造について説明できる。
11		9		呼吸器2	呼吸の運動力学について説明できる。
12		16		呼吸器3	ガス交換について説明できる。
13		23		消化器1	口腔～小腸までの構造と機能について説明できる。
14		30		消化器2	肝臓・膵臓・胆嚢:消化と吸収について説明できる。
15	8	6		消化器3	大腸機能と排便について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	目で見ることからのメカニズム 医学書院			
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科目名	外国語			学年	1 年 11 期生
担当者				期別	前期
単位数	2 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	九州医療専門学校にて27年間の指導経験有り				
一般目標(GIO)					
医療人としての英語の専門用語、会話が習得できる。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	11	3	自己紹介	初対面で相手に自身事を英語で話せるよう説明できる。
2		18	3	身体の名称	身体の名称を英語で説明できる。
3		25	3	リスニングディクテーション	医療の場で使用する重要表現を聞き、書く手法を説明できる。
4	5	16	3	身体に関する長文	長文を読み理解できる。
5		23	3	症状・痛み	症状・痛みを英語で話せるよう説明できる。
6		30	3	リスニングディクテーション	英語を聞きまねる、話す書く事を応用できる。
7	6	13	3	症状・痛みに関する長文	長文を読み理解する手法を説明できる。
8		20	3	診察、検査の支持	患者に英語で指示誘導ができるよう説明できる。
9		27	3	診察、処置の説明	患者に英語で説明する方法を述べることができる。
10	7	4	3	リスニングディクテーション	英語を聞きまねる、話す書く事を応用できる。
11		11	3	医療アドバイス	患者に英語でアドバイスができるよう説明できる。
12		18	3	リスニングディクテーション	英語を聞きまねる、話す書く事を応用できる。
13		25	3	グループワークチェックシート作成	これまでの重要表現を理解し、グループでの発表資料作成方法を説明できる。
14	8	1	3	リスニングディクテーション	英語を聞きまねる、話す書く事を応用できる。
15		9	3	重要表現、会話テスト	重要表現を覚え、話す事ができるよう説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	70%		World by word(Pearson Longman)		ミミテック 英語マスター
会話テスト	10%		(beginning vocabulary workbook)		
平常点	20%		看護・医療スタッフの英語(朝日出版社)		
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	人文科学2			学年	2年10期生
担当者				期別	前期
単位数	2単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	九州大谷短期大学教授				
一般目標(GIO)					
柔道整復師として医学の場に立つ者の知識と共に患者に対応する心を学ぶ。 患者と話が出来、心を思いやることの出来る柔道整復師の訓練をする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	9	2	医学用語の知識1	よみ方辞典を用いて医学用語を説明できる。
2		16	2	医学用語の知識2	よみ方辞典を用いて医学用語を説明できる。
3	5	7	2	医学用語の知識3	よみ方辞典を用いて医学用語を説明できる。
4		14	2	履歴書の書き方	履歴書の書き方を説明できる。
5		21	2	時事問題を聞く1	新聞の読み方を説明できる。
6		28	2	時事問題を聞く2	新聞の読み方を説明できる。
7	6	4	2	読解力の訓練1	評論文を参考に小論文の書き方を説明できる。
8		18	2	読解力の訓練2	評論文を参考に小論文の書き方を説明できる。
9		25	2	読解力の訓練3	評論文を参考に小論文の書き方を説明できる。
10	7	2	2	想像力の発展	患者との対話術、患者の心のケアの仕方について説明できる。
11		9	2	語学力の訓練	語学力の手法を説明できる。
12		16	2	レポートの書き方	レポートの書き方・手法を説明できる。
13		23	2	論文の書き方	論文作成の方法および規定について説明できる。
14		30	2	表現力の発展	読書により多くの表現方法を説明できる。
15	8	6	2	まとめ	本講義をまとめ評価できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	70%		配布プリント		
平常点	30%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	自然科学2			学年	1 年 11 期生
担当者				期別	後期
単位数	2 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	医師免許を有する教員が、自然科学を講義する。				
一般目標(GIO)					
自然科学では、人体の構造と機能について概説する。自然科学2では、器官として、泌尿器・生殖内分泌器・運動器(骨格・筋肉)・神経系(中枢・末梢)・感覚器の解剖生理学を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	1	3	泌尿器1	腎臓の構造について説明できる。
2		8	3	泌尿器2	尿の生成について説明できる。
3		15	3	生殖内分泌系1	男性生殖器について説明できる。
4		29	3	生殖内分泌系2	女性生殖器について説明できる。
5	11	5	3	運動器1	骨格の構造について説明できる。
6		12	3	運動器2	骨の生理について説明できる。
7		26	3	運動器3	筋肉の構造について説明できる。
8	12	3	3	運動器4	筋収縮のメカニズムについて説明できる。
9		10	3	神経系1	中枢神経系の構造について説明できる。
10		17	3	神経系2	中枢神経系の機能について説明できる。
11		24	3	神経系3	末梢神経について説明できる。
12	1	7	3	神経系4	自律神経について説明できる。
13		14	3	感覚器1	視覚について説明できる。
14		21	3	感覚器2	聴覚・平衡覚について説明できる。
15		28	3	感覚器3	嗅覚・味覚・触覚・内臓感覚について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	目で見るからだのメカニズム 医学書院			
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	解剖学1			学年	1 年 11 期生
担当者				期別	前期
単位数	1 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	歯学博士取得、九州大学勤務				
一般目標(GIO)					
解剖学は医療にたずさわるものに取り、非常に重要な基礎学問である事を理解する。 解剖学を学ぶことにより、人体の肉眼解剖学的及び組織学的、更には細胞学的知識が理解できる。 特に、運動系である骨と筋について詳細に解説ができる。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	8	1	人体解剖学概説	解剖学の意義と基本的解剖学用語を説明できる。
2	4	15	1	人体解剖学概説	細胞増殖の仕組みを説明できる。
3	4	22	1	人体解剖学概説	組織の分類と特性及び発生を説明できる。
4	5	13	1	人体解剖学概説	人体の区分を説明できる。
5	5	20	1	骨格系	骨の構造と機能を説明できる。
6	5	27	1	骨格系	関節の種類を説明できる。
7	6	3	1	骨格系	脊柱の構造と構成する骨を説明できる。
8	6	17	1	骨格系	胸郭を構成する骨を説明できる。
9	6	24	1	骨格系	上肢帯と上肢を説明できる。
10	7	1	1	骨格系	骨盤について説明できる。
11	7	8	1	骨格系	下肢の骨について説明できる。
12	7	22	1	骨格系	頭蓋骨・顔面頭蓋を説明できる。
13	7	29	1	骨格系	脳頭蓋について説明できる。
14	8	5	1	筋系	筋概論について説明できる
15	8	19	1	筋系	頭頸部の筋について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	解剖学(医師薬出版株式会社)		解剖学講義第2版(伊藤 隆著、高野 廣子 改訂)(南山堂)	
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	解剖学3		学年	1 年 11 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	1 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30H・15回		専任・兼任	兼任	
実務経験	医師免許所有 久留米大学医学部 准教授				
一般目標(GIO)					
解剖学は、柔道整復師に必要な人体の構造の基本を習得するために、人体各部の臓器の位置、大きさ、構造の詳細を学ぶ科目である。特にこの科目では、内臓(消化器, 呼吸器, 泌尿生殖器)を中心としてその基本的知識を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	9	2	消化器概論, 口概論	消化器全体の概略を説明する。口の構造の基本を説明できる。
2	4	16	2	口各論(口腔, 歯, 舌など), 咽頭	口と咽頭の構造の詳細を説明できる。
3	4	23	2	食道, 胃	食道と胃の構造の詳細を説明できる。
4	5	7	2	小腸(十二指腸, 空腸, 回腸)	小腸の構造の詳細を説明できる。
5	5	14	2	大腸(盲腸～肛門)	大腸の構造の詳細を説明できる。
6	5	28	2	肝臓, 胆嚢, 膵臓	肝胆膵の構造の詳細を説明できる。
7	6	4	2	呼吸器概論, 鼻概論	呼吸器全体の概略を説明する。鼻の構造の基本を説明できる。
8	6	11	2	鼻各論, 咽頭, 喉頭	鼻, 咽頭, 喉頭の構造の詳細を説明できる。
9	6	18	2	気管, 気管支, 肺	気管, 気管支, 肺の構造の詳細を説明できる。
10	7	2	2	泌尿器概論 腎臓概論	泌尿器全体の概略を説明する。腎臓の構造の基本を説明できる。
11	7	9	2	腎臓各論	腎臓の構造の詳細を説明できる。
12	7	16	2	尿管, 膀胱, 尿道	尿管, 膀胱, 尿道の構造の詳細を説明できる。
13	7	23	2	生殖器概論 男性生殖器1	生殖器全体の概略を説明する。男性生殖器の構造の基本を説明できる。
14	7	30	2	男性生殖器2 女性生殖器1	男性生殖器の構造の詳細を説明する。女性生殖器の構造の基本を説明できる。
15	8	6	2	女性生殖器 2	女性生殖器の構造の詳細を説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	80%	全国柔道整復学校協会監修教科書解剖学第2版			
中間小テスト	20%	(医歯薬出版)			
	%				
	%				

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科目名	生理学1			学年	1 年 11 期生
担当者				期別	前期
単位数	1 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	歯科医院院長13年、教員暦20年。				
一般目標(GIO)					
<p>生理学は、人体の機能を明らかにし、その機能がどのようなメカニズムで現れるかを追求する学問である。柔道整復師を目指すにあたって技術を習得する。人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官)の働きや役割を身につける。この講義では、膨大な生理学の内容を体系的に理解し、国家試験及び将来の臨床にも役立つ生理学の知識を習得する。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	11	1	生理学の基礎(1)	からだの化学的組成について説明できる。
2		11	2	生理学の基礎(2)	細胞の構成体の機能を説明できる。
3		18	1	生理学の基礎(3)	受動輸送、能動輸送について説明できる。
4		18	2	血液の生理学(1)	血液の組成、役割について説明できる。
5		25	1	血液の生理学(2)	免疫機能について説明できる。血液型を識別できる。
6		25	2	血液の生理学(3)	血液凝固の機序について説明できる。
7	5	9	1	循環の生理学(1)	心臓の構造、機能について説明できる。
8		9	2	循環の生理学(2)	不整脈について説明できる。
9		16	1	循環の生理学(3)	血圧について説明できる。
10		16	2	循環の生理学(4)	リンパ管系・循環の調節について説明できる。
11		23	1	循環の生理学(5)	局所循環、脳脊髄液循環について説明できる。
12		23	2	呼吸の生理学(1)	呼吸器の機能的構造について説明できる。
13		30	1	呼吸の生理学(2)	ガス交換、酸素の運搬、二酸化炭素の運搬について説明できる。
14		30	2	呼吸の生理学(3)	呼吸を調節する仕組みについて説明できる。
15	6	13	1	呼吸の生理学(4)	呼吸の異常について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修			
	%	生理学 改訂第3版			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	生理学2			学年	1 年 11 期生
担当者				期別	前期
単位数	1 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	歯科医院院長13年、教員暦20年。				
一般目標(GIO)					
<p>生理学は、人体の機能を明らかにし、その機能がどのようなメカニズムで現れるかを追求する学問である。柔道整復師を目指すにあたって技術を習得する。人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官)の働きや役割を身につける。この講義では、膨大な生理学の内容を体系的に理解し、国家試験及び将来の臨床にも役立つ生理学の知識を習得する。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	6	13	2	消化と吸収(1)	消化管の運動と調節について説明できる。
2		20	1	消化と吸収(2)	消化液の分泌機序について説明できる。
3		20	2	消化と吸収(3)	消化管ホルモン、肝臓、胆道系について説明できる。
4		27	1	栄養と代謝(1)	クエン酸回路、電子伝達系について説明できる。
5		27	2	栄養と代謝(2)	中間代謝、エネルギー代謝について説明できる。
6	7	4	1	体温とその調節	熱産生の機序、体温調節について説明できる。
7		4	2	尿の生成と排泄(1)	腎臓の構造と機能について説明できる。
8		11	1	尿の生成と排泄(2)	糸球体濾過について説明できる。
9		11	2	尿の生成と排泄(3)	尿細管におけるイオン、水の再吸収、分泌について説明できる。
10		18	1	内分泌系の機能(1)	ホルモンの一般的性質について説明できる。
11		18	2	内分泌系の機能(2)	視床下部ホルモンについて説明できる。
12	8	1	1	内分泌系の機能(3)	下垂体前葉ホルモン、下垂体後葉ホルモンについて説明できる。
13		1	2	内分泌系の機能(4)	甲状腺ホルモンについて説明できる。
14		8	1	内分泌系の機能(5)	副腎皮質ホルモンについて説明できる。
15		8	2	内分泌系の機能(6)	副腎髄質ホルモンについて説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修			
	%	生理学 改訂第3版			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	運動学1			学年	1 年 11 期生
担当者				期 別	前期
単位数	1 単 位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	一般病院勤務経験有り。西九州大学リハビリテーション学科教授。				
一般目標(GIO)					
人間の運動に関わる身体の機能と構造について基本的な知識を備えるために、 正常な構造と機能について学修する。とくに、骨・関節・筋の構造と機能に重きをおいた講義を展開する。 身体構造の基礎知識を使用して、身体の運動のメカニズムを理解することが目標である。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	12	1	運動学の目的	運動学を学修する目的と他科目との関連を認識する
2	4	19	1	運動のとらえ方	運動の表現方法を理解し述べることができる
3	4	26	1	運動の表示	運動の表示を理解し説明することができる
4	5	10	1	運動の法則	運動の法則を理解し、身体構造と関係づけられる
5	5	17	1	仕事と力学的エネルギー	運動時の力学的エネルギーを理解し体感できる
6	5	24	1	骨・関節の構造と機能	骨関節の構造を説明できる
7	5	31	1	前半部まとめ	運動学の知識を応用して、運動を説明できる
8	6	14	1	骨格筋の構造と機能	骨格筋の構造と機能を説明できる
9	6	21	1	末梢神経・中枢神経	神経の構造と機能を説明できる
10	7	5	1	感覚と知覚	感覚と知覚の構造と機能を説明できる
11	7	12	1	運動感覚と運動の制御機構	運動感覚と運動制御の意味を理解し説明できる
12	7	19	1	反射	反射のメカニズムを理解し説明できる
13	7	26	1	連合運動と共同運動	連合運動と共同運動のメカニズムを説明できる
14	8	2	1	随意運動	随意運動を理解し説明できる
15	8	9	1	期末試験	運動学的知識を応用して身体運動を説明できる
評価基準			教科書		参考書
小テスト	50%	斉藤宏・鴨下博著			
定期考査	50%	「運動学」医歯薬出版株式会社			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	臨床医学総論1			学年	1 年 11 期生
担当者				期別	前期
単位数	1 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	内科開業医師 内科開業医の立場より診察の基本について講義する。				
一般目標(GIO)					
医療者としての心構えの大切さを知り、問診での聴き方及び身体の診察(生命徴候観察、視診、触診、打診、聴診、感覚検査、反射検査)の仕方を学び、より正しい診断に近づく。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	8	3	診察概論	医療者の心構え等を述べる事ができる。
2		15	3	医療面接	問診について説明できる。
3		22	3	視診1	体格・姿勢と疾患の関係が説明できる。
4	5	13	3	視診2	肥満・やせの基準及び意識状態が説明できる。
5		20	3	視診3	異常運動が説明できる。
6		27	3	視診4	異常歩行と疾患の関係が説明できる。
7	6	3	3	視診5	皮膚病変や爪の変化について説明できる。
8		17	3	視診6	頭部、顔面、頸部の視診が説明できる。
9		24	3	視診7	胸部の変形や腹部の視診が説明できる。
10	7	1	3	視診8	側彎や四肢の変形について説明できる。
11		8	3	打診1	打診の方法、打診音の種類を説明できる。
12		22	3	打診2	胸部、腹部の打診が説明できる。
13		29	3	聴診	肺、心臓、腹部の聴診が説明できる。
14	8	5	3	触診1	三叉神経痛や皮膚腫瘍を説明する事ができる。
15		19	3	触診2	筋肉、骨、関節の触診を説明する事ができる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	一般臨床医学 (全国柔道整復学校協会監修)		国家試験過去問題集 柔道整復師用 (医道の日本社発行)	
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	関係法規			学年	1 年 11 期生
担当者				期別	前期
単位数	1単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回			専任・兼任	専任
実務経験	柔道整復師免許取得15年、専任教員7年				
一般目標(GIO)					
臨床現場において良質な医療の提供を実施するために、本科目では柔道整復師の業務に必要な法の基礎や柔道整復師法、その他医療に関わる法を修得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	9	1	法の意義、体系	法の基礎を説明できる。
2		16	1	柔道整復師と患者の権利、リスクマネジメント	インフォームドコンセントやリスクマネジメントについて説明できる。
3	5	7	1	柔道整復師法(総則、免許)	目的、定義、要件が説明できる。
4		14	1	柔道整復師法(免許、国家試験)	免許申請、免許交付、国家試験の内容について説明できる。
5		21	1	柔道整復師法(業務)	業務の禁止、業務範囲について説明できる。
6		28	1	柔道整復師法(施術所)	施術所の届出、設備基準について説明できる。
7	6	4	1	柔道整復師法(雑則、罰則)	広告の制限、罰則に関わる内容について説明できる。
8		18	1	医療従事者の資格法①	医師法、歯科医師法について説明できる。
9		25	1	医療従事者の資格法②	その他の医療従事者の資格法について説明できる。
10	7	2	1	医療法①	目的、理念、定義が説明できる。
11		9	1	医療法②	医療機関の開設、休止等の要件、情報提供等について説明できる。
12		16	1	社会福祉法関係法規	社会福祉法、身体障害者福祉法の概要を説明できる。
13		23	1	社会保険関係法規①	健康保険法と国民健康保険について説明できる。
14		30	1	社会保険関係法規②	介護保険法について説明できる。
15	8	6	1	その他の関係法規	個人情報保護に関する法律について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	関係法規 2019年版			
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	衛生学・公衆衛生学			学年	1 年 11 期生
担当者				期別	後期
単位数	1 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30 時間 × 15 回			専任・兼任	兼任
実務経験	歯科大学助教授を歴任し、行政と協働して公衆衛生活動を行ってきた。				
一般目標 (GIO)					
衛生学・公衆衛生学では、人の健康を左右する要因を理解し、人々の健康の保持、増進を図るために、これらの要因に対して科学的根拠のある対策を行うことを修得する。また、疾病予防や健康増進に寄与するよう衛生・公衆衛生の基本的な知識を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	12		衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動、他	衛生学・公衆衛生学の歴史・活動を説明できる。
2		19	4	健康の概念、人口統計、他	健康を説明できる。人口の推移を比較し、現状を説明できる。
3		26	3	疾病予防と健康管理-疾病の自然史、予防の段階、生活習慣病、集団検診	疾病予防と健康管理について説明できる。
4	5	10	4	感染症の予防: 感染症の定義、種類、予防、対策、予防接種	感染症成立の要件を分類し、予防法を説明できる。主な感染症の動向を評価できる。
5		17	3	消毒の意義、分類、消毒法等	感染源に対する消毒を説明でき、院内感染への関わり方を述べる事ができる。
6		24	4	環境問題、物理的・化学的・生物的環境要因、空気、公害	環境とヒトの健康の関係を述べ、環境問題対策を説明できる。
7		31	3	食品衛生等	食品衛生を説明する事ができ、栄養と健康を関係づける事ができる。
8	6	14	4	模擬試験 1	7 回目までの講義内容の理解度を整理する。
9		21	3	母子保健: 指標、小児保健、行政、対策 学校保健: 領域と構成、学校保健管理、保健教育	母子保健・学校保健の目的と枠組が説明でき、年齢に応じた保健対策を述べる事ができる。
10	7	5	4	産業保健: 目的、労働災害、作業条件による健康障害	産業保健の目的と枠組が説明でき、柔道整復師としての関わり方を述べる事ができる。
11		12	3	成人・老人保健、生活習慣病 精神保健: 精神の病気、精神保健活動 地域保健と国際保健: 地域保健活動、福祉対策、国際協力、WHO	成人・老人保健の目的と枠組が説明でき、柔道整復師としての関わり方を述べる事ができる。精神保健問題を指摘し、その対策を説明する事ができる。地域保健・国際保健を説明し、進め方を述べる事ができる。
12		19	4	衛生行政と保健医療の制度: 組織、医療施設、医療保険、公費負担医療他	衛生行政と保健医療の制度を説明する事ができる。
13		26	3	医療の倫理と安全確保: 問題と倫理、医療の安全の確保	医療の倫理と安全確保について柔道整復師としての関わり方を述べる事ができる。
14	8	2	4	疫学: 病因論、疫学調査、調査の実施と結果分析、結果の解釈、統計手法	疫学を説明し、疫学の手法を分類し、評価する事ができる。
15		9	3	模擬試験2	9~14 回目までの講義内容について理解度を整理する。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	80%	南江堂 衛生学・公衆衛生学		厚生労働白書等、その他配付資料	
レポート等	10%				
小テスト	5%				
受講態度・出席状況	5%				

科目名	解剖学2			学年	1 年 11 期生
担当者				期別	後期
単位数	1 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	歯学博士取得、九州大学勤務				
一般目標(GIO)					
解剖学は医療にたずさわるものに取り、非常に重要な基礎学問である事を理解する。 解剖学を学ぶことにより、人体の肉眼解剖学的及び組織学的、更には細胞学的知識が理解できる。 特に、運動系である骨と筋について、又脈管系について詳細に解説ができる。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	30	1	筋系	胸部の筋について説明できる。
2	10	7	1	筋系	腹部の筋について説明できる。
3	10	21	1	筋系	背部の機について説明できる。
4	10	28	1	筋系	上腕部の筋について説明できる。
5	11	4	1	筋系	前腕部及び手の筋について説明できる。
6	11	11	1	筋系	内寛骨筋・外寛骨筋について説明できる。
7	11	25	1	筋系	大腿部の筋について説明できる。
8	12	2	1	筋系	下腿部及び足の筋について説明できる。
9	12	9	1	脈管系	循環器概論について説明できる。
10	12	16	1	脈管系	心臓の構造について説明できる。
11	12	23	1	脈管系	心臓の制御について説明できる。
12	1	6	1	脈管系	動脈について説明できる。
13	1	20	1	脈管系	動脈について説明できる。
14	1	27	1	脈管系	静脈について説明できる。
15	2	3	1	脈管系	リンパについて説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	解剖学(医師薬出版株式会社)		解剖学講義第2版(伊藤 隆著、高野 廣子 改訂)(南山堂)	
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	解剖学4			学年	1 年 11 期生
担当者				期別	後期
単位数	1 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	医師免許所有 久留米大学医学部 准教授				
一般目標(GIO)					
解剖学は、柔道整復師に必要な人体の構造の基本を習得するために、人体各部の臓器の位置、大きさ、構造の詳細を学ぶ科目である。特にこの科目では、体表解剖学、内分泌系、神経系および感覚器系の構造を中心としてその基本的知識を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	30	2	体表解剖学1(骨格系)	体表より触れられる骨格を説明できる。
2	10	7	2	体表解剖学2(筋系)	体表より触れられる骨格筋を説明できる。
3	10	21	2	体表解剖学3(脈管, 神経系)	体表より触れられる脈管, 神経系を説明できる。
4	10	28	2	内分泌系1(内分泌概論)	内分泌系全体の概略を説明できる。
5	11	4	2	内分泌系2(視床下部, 下垂体)	視床下部-下垂体の構造の詳細を説明できる。
6	11	11	2	内分泌系3(甲状腺, 副腎など)	甲状腺, 副腎などの構造の詳細を説明できる。
7	11	25	2	神経系1(概論)	神経系全体の概略を説明できる。
8	12	2	2	神経系2(脳)	脳の構造の詳細を説明できる。
9	12	9	2	神経系3(脊髄, 伝導路)	脊髄と伝導路の構造の詳細を説明できる。
10	12	16	2	神経系4(末梢神経: 脊髄神経)	脊髄神経の構造の詳細を説明できる。
11	12	23	2	神経系4(末梢神経: 脳神経)	脳神経の構造の詳細を説明できる。
12	1	6	2	感覚器系1(皮膚)	皮膚の構造の詳細を説明できる。
13	1	20	2	感覚器系2(視覚器)	視覚器の構造の詳細を説明できる。
14	1	27	2	感覚器系3(嗅覚器, 味覚器)	嗅覚器と味覚器の構造の詳細を説明できる。
15	2	3	2	感覚器系4(平衡聴覚器)	平衡聴覚器の構造の詳細を説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	80%	全国柔道整復学校協会監修教科書解剖学第2版			
中間小テスト	20%	(医歯薬出版)			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	生理学3			学年	1 年 11 期生
担当者				期別	後期
単位数	1 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	歯科医院院長13年、教員暦20年。				
一般目標(GIO)					
<p>生理学は、人体の機能を明らかにし、その機能がどのようなメカニズムで現れるかを追求する学問である。柔道整復師を目指すにあたって技術を習得する。人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官)の働きや役割を身につける。この講義では、膨大な生理学の内容を体系的に理解し、国家試験及び将来の臨床にも役立つ生理学の知識を習得する。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	10	1	内分泌系の機能(7)	膵臓のホルモンについて説明できる。
2		10	2	内分泌系の機能(8)	精巣のホルモンについて説明できる。
3		17	1	内分泌系の機能(9)	卵巣のホルモンについて説明できる。
4		17	2	生殖(1)	性染色体とその異常、性分化について説明できる。
5		24	1	生殖(2)	男性生殖器系、女性生殖器系について説明できる。
6		24	2	生殖(3)	卵巣周期、月経周期について説明できる。
7		31	1	生殖(4)	妊娠と分娩、乳汁分泌について説明できる。
8		31	2	骨の生理学(1)	骨の構造、骨の形成と成長について説明できる。
9	11	7	1	骨の生理学(2)	カルシウム代謝、リン代謝について説明できる。
10		7	2	体液の生理学	体液の恒常性を維持する仕組みについて説明できる。
11		14	1	神経の基本的機能(1)	静止膜電位、活動電位について説明できる。
12		14	2	神経の基本的機能(2)	神経の興奮伝導について説明できる。
13		21	1	神経系の機能(1)	体性神経系、自律神経系について説明できる。
14		21	2	神経系の機能(2)	内臓機能の調節について説明できる。
15	12	5	1	神経系の機能(3)	姿勢と運動の調節について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修			
	%	生理学 改訂第3版			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	生理学4			学年	1 年 11 期生
担当者				期別	後期
単位数	1 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	歯科医院院長13年、教員暦20年。				
一般目標(GIO)					
<p>生理学は、人体の機能を明らかにし、その機能がどのようなメカニズムで現れるかを追求する学問である。柔道整復師を目指すにあたって技術を習得する。人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官)の働きや役割を身につける。この講義では、膨大な生理学の内容を体系的に理解し、国家試験及び将来の臨床にも役立つ生理学の知識を習得する。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	12	5	2	神経系の機能(4)	脳幹、小脳、大脳基底核の機能について説明できる。
2		12	1	神経系の機能(5)	新皮質運動野の機能について説明できる。
3		12	2	神経系の機能(6)	大脳皮質の機能分化、脳波について説明できる。
4		19	1	神経系の機能(7)	覚醒と睡眠について説明できる。
5		19	2	神経系の機能(8)	認知、言語、意思と感情、学習、記憶について説明できる。
6		26	1	筋肉の機能(1)	筋肉の種類を分類し、その特徴について説明できる。
7		26	2	筋肉の機能(2)	骨格筋の収縮の仕組みについて説明できる。
8	1	9	1	筋肉の機能(3)	平滑筋、心筋の収縮の仕組みについて説明できる。
9		9	2	感覚の生理学(1)	感覚の一般的性質について説明できる。
10		16	1	感覚の生理学(2)	体性感覚について説明できる。
11		16	2	感覚の生理学(3)	味覚について説明できる。
12		23	1	感覚の生理学(4)	嗅覚について説明できる。
13		23	2	感覚の生理学(5)	聴覚について説明できる。
14		30	1	感覚の生理学(6)	前庭感覚について説明できる。
15		30	2	感覚の生理学(7)	視覚について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修			
	%	生理学 改訂第3版			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	高齢者の生理学的特徴・変化			学年	1 年 11 期生
担当者				期別	前期
単位数	1 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	15H・7.5回			専任・兼任	兼任
実務経験	歯科医院院長13年、教員暦20年。				
一般目標(GIO)					
<p>生理学は、人体の機能を明らかにし、その機能がどのようなメカニズムで現れるかを追求する学問である。柔道整復師を目指すにあたって技術を習得する。人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官)の働きや役割を身につける。この講義では、膨大な生理学の内容を体系的に理解し、国家試験及び将来の臨床にも役立つ生理学の知識を習得する。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	12	5	3	運動と身体発達(1)	小児期から青年期の発育特性について説明できる。
2		12	3	運動と身体発達(2)	小児期から青年期の骨・筋肉の発育と運動について説明できる。
3		19	3	運動と身体発達(3)	小児期から青年期の呼吸・循環機能と運動について説明できる。
4		26	3	運動と身体発達(4)	発育期の運動不足・過運動の影響について説明できる。
5	1	9	3	運動と身体発達(5)	運動の習熟について説明できる。
6		16	3	競技者の生理学的特徴(1)	スポーツ及びトレーニングによる適応について説明できる。
7		23	3	競技者の生理学的特徴(2)	競技者の神経機構の特性について説明できる。
8		30	3	競技者の生理学的特徴(3)	姿勢調節・眼球運動と姿勢制御について説明できる。
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修			
	%	生理学 改訂第3版14刷追加資料			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	高齢者の生理学的特徴・変化			学年	1 年 11 期生
担当者				期別	後期
単位数	1 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	15H・7.5回			専任・兼任	兼任
実務経験	歯科医院院長13年、教員暦20年。				
一般目標(GIO)					
<p>生理学は、人体の機能を明らかにし、その機能がどのようなメカニズムで現れるかを追求する学問である。柔道整復師を目指すにあたって技術を習得する。人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官)の働きや役割を身につける。この講義では、膨大な生理学の内容を体系的に理解し、国家試験及び将来の臨床にも役立つ生理学の知識を習得する。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	10	3	細胞、組織の加齢現象	細胞の老化、組織の加齢現象について説明できる。
2		17	3	高齢者の生理学的特徴(1)	神経系、運動器系の変化について説明できる。
3		24	3	高齢者の生理学的特徴(2)	感覚器系、循環器系の変化について説明できる。
4		31	3	高齢者の生理学的特徴(3)	呼吸器系、消化器系、皮膚の変化について説明できる。
5	11	7	3	高齢者の生理学的特徴(4)	高齢期特有の疾患・障害について説明できる。
6		14	3	運動と加齢(1)	歩行機能について説明できる。
7		21	3	運動と加齢(2)	平衡機能について説明できる。
8	12	5	3	運動と加齢(3)	反応時間について説明できる。
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修			
	%	生理学 改訂第3版14刷追加資料			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	病理学概論1			学年	1 年 11 期生
担当者				期 別	後期
単位数	1 単 位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験					
一般目標(GIO)					
ヒトの体内でどのように細胞、組織、生理機能が障害されて疾患を起こしているかという基本原理をおもに組織の形態変化などから理解し、その知識を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	2	2	病理学とは？、疾病とは？	病理学の疾病分類を示し、ある疾患がどの範ちゅうに相当するかを説明できる。
2	10	9	2	組織の障害と修復1(適応:萎縮、肥大、過形成)	障害因子の強さに応じた様々な生体の適応現象と一般化し、具体例を説明できる。
3	10	16	2	組織の障害と修復2(変性、壊死)	障害因子の強さに応じた様々な生体の適応現象と一般化し、具体例を説明できる。
4	10	23	2	組織の障害と修復3(再生、化生、修復(創傷治癒、骨折治癒、異物処理、移植)	障害因子の強さに応じた様々な生体の適応現象と一般化し、具体例を説明できる。
5	10	30	2	代謝障害と疾病(痛風、黄疸、糖尿病)	代謝過程の異常を生化学的かつ生理学的に説明する事ができる。
6	11	6	2	循環障害1(うっ血、出血)	用語の意味を再確認し、概略を説明する事ができる。
7	11	13	2	循環障害2(血栓、塞栓、梗塞)	用語の意味を再確認し、概略を説明する事ができる。
8	12	4	2	循環障害3(側副循環障害、高血圧、DIC、浮腫)	用語の意味を再確認し、概略を説明する事ができる。
9	12	11	2	炎症(滲出性炎、増殖性炎)	炎症を大きく2つに捉えそれぞれの特徴を説明する事ができる。
10	12	18	2	免疫異常・アレルギー1(免疫担当細胞、免疫応答)	免疫応答の概略を述べたうえで、アレルギーの4つの型を分類し、種々の膠原病の特徴を説明する事ができる。
11	12	25	2	免疫異常・アレルギー2(アレルギー、自己免疫疾患)	免疫応答の概略を述べたうえで、アレルギーの4つの型を分類し、種々の膠原病の特徴を説明する事ができる。
12	1	8	2	腫瘍1(悪性腫瘍の性質、転移)	悪性腫瘍の特徴を細胞レベル、組織レベルで列記し、転移の様式と具体例を説明する事ができる。
13	1	15	2	腫瘍2(発生機構、診断、治療)	悪性腫瘍の特徴を細胞レベル、組織レベルで列記し、転移の様式と具体例を説明する事ができる。
14	1	22	2	先天性異常(優性遺伝、劣性遺伝)	主要な優性遺伝、劣性遺伝による疾患及び染色体異常によるものを説明する事ができる。
15	1	29	2	病因(内因、外因(物理、化学、生物)	疾病とそこに至る最初のきっかけを説明する事ができる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	90%		病理学概論(改訂第3版)(柔道整復学校協会監修、南江堂)		よくわかる病理学の基本としくみ (田村著、秀和システム)
出席	10%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	臨床医学総論2			学年	1 年 11 期生
担当者				期別	後期
単位数	1 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	内科開業医の立場より診察の基本について講義する。				
一般目標(GIO)					
医療者としての心構えの大切さを知り、問診での聴き方及び身体の診察(生命徴候観察、視診、触診、打診、聴診、感覚検査、反射検査)の仕方を学び、より正しい診断に近づくことを目標とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	30	3	触診3	胸部、腹部などの触診を説明する事ができる。
2	10	7	3	生命徴候1	体温について説明できる。
3		21	3	生命徴候2	血圧、脈拍について説明できる。
4		28	3	生命徴候3	呼吸について説明できる。
5	11	4	3	感覚検査	表在・深部・複合感覚などを説明する事ができる。
6		11	3	反射検査1	表在反射を説明する事ができる。
7		25	3	反射検査2	腱反射を説明する事ができる。
8	12	2	3	反射検査3	病的反射、自立神経反射などを説明する事ができる。
9		9	3	代表的な臨床症状1	発熱について説明できる。
10		16	3	代表的な臨床症状2	出血傾向、リンパ節腫脹について説明できる。
11		23	3	代表的な臨床症状3	意識障害、チアノーゼについて説明できる。
12	1	6	3	代表的な臨床症状4	関節痛をきたす疾患などの説明ができる。
13		20	3	代表的な臨床症状5	浮腫について説明できる。
14		27	3	代表的な臨床症状6	肥満・やせの病態生理を説明する事ができる。
15	2	3	3	検査法	生理機能検査、検体検査を説明する事ができる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	一般臨床医学 (全国柔道整復学校協会監修)		国家試験過去問題集 柔道整復師用 (医道の日本社発行)	
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	リハビリテーション医学1			学年	1 年 11 期生
担当者				期別	後期
単位数	1 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	一般病院のリハビリテーション科での勤務経験有.大学のリハビリテーション学科に勤務				
一般目標(GIO)					
日本におけるリハビリテーション医学は戦後導入され、日本リハビリテーション医学会が設立されたのは昭和38年であり、まだ歴史の浅い医学である。本科目は、そのリハビリテーション医学を理解することが目標である。そのため、まず医学の概略を理解し、その後、リハビリテーションにおける評価と診断および治療に関する知識を修得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	2	3	リハビリテーションの概念と歴史	リハビリテーションの概念と歴史について説明できる。
2		9	3	リハビリテーション医学(1)	医学的リハビリテーションについて説明できる。
3		16	3	リハビリテーション医学(2)	障害の3つのレベルについて説明できる。
4		23	3	基礎医学 A運動学と機能解剖(1)	運動学と機能解剖について説明できる。
5		30	3	基礎医学 A運動学と機能解剖(2)	運動学と機能解剖について説明できる。
6	11	6	3	基礎医学 B障害学	障害学について説明できる。
7		13	3	基礎医学 C治療学	治療学について説明できる。
8	12	4	3	評価と診断(1)	リハビリテーション医学の評価と診断について説明できる。
9		11	3	評価と診断(2)	リハビリテーション医学の評価と診断について説明できる。
10		18	3	評価と診断(3)	リハビリテーション医学の評価と診断について説明できる。
11		25	3	評価と診断(4)	リハビリテーション医学の評価と診断について説明できる。
12	1	8	3	評価と診断(5)	リハビリテーション医学の評価と診断について説明できる。
13		15	3	リハビリテーションの治療 A理学療法	理学療法について説明できる。
14		22	3	リハビリテーションの治療 B作業療法	作業療法について説明できる。
15		29	3	まとめ	履修内容を整理する。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	リハビリテーション医学(全国柔道整復学校協会監修)			
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	職業倫理		学年	1 年 11 期生	
担当者			期 別	後期	
単位数	1 単 位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	15時間 7回		専任・兼任	専任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が社会生活上の守るべく規範や職業倫理について解説する。				
一般目標(GIO)					
<p>本科目は、社会的モラル、マナー、ルール上に存在すると考えられ、それらを含む倫理の概念を理解し社会的責任や役割を果たすために必要とされる行動の規範や基準を身につける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	12	6	1	医療従事者の職業倫理	倫理そのものが示す意味から説明できる。
2	12	13	1	基本的倫理観と患者対応	インフォームドアセントを含め説明できる。
3	12	20	1	柔道整復師の社会的責任	医療事故の対応について詳しく説明できる。
4	12	27	1	グループディスカッション	事例別に分類できる。
5	1	10	1	医療における情報と責任	カルテ等の情報管理について説明できる。
6	1	17	1	職業倫理資料について	難しい言葉等を理解できるように説明できる。
7	1	31	1	1～6項の復習・確認	講義内容を再認識したか確認し学生同士で評価する。
評価基準			教科書		参考書
期末テスト	100%	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理			
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科目名	社会保障制度		学年	1 年 11 期生	
担当者			期別	後期	
単位数	1 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	15時間 8回		専任・兼任	専任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が整骨院・接骨院の運営上、知っておくべき社会保障制度や療養費の計算方式などを分かりやすく解説する。				
一般目標 (GIO)					
<p>本科目は、整骨院・接骨院の運営上の必要知識であるため、解釈を間違わないように理解する。</p> <p>また、療養費支給基準などの説明も含め不正の意味を理解し判断する能力を身につける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	4	1	社会保障と社会保障制度	1つ1つの単語の意味を説明できる。
2	10	11	1	医療保険制度	体制・制度について詳しく説明できる。
3	10	18	1	柔道整復師における療養費①	療養費・柔道整復療養費について説明できる。
4	10	25	1	柔道整復師における療養費②	柔道整復療養費の推移について推論できる。
5	11	1	1	柔道整復師における療養費③	療養費の算定方法について説明できる。
6	11	8	1	ケーススタディ①	療養費請求について説明できる。
7	11	15	1	ケーススタディ②	不正となる事例を説明できる。
8	11	29	1	1～8項の復習・確認	期末テストについて説明できる。
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価基準			教科書		参考書
期末テスト	100%	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理			
	%				
	%				
	%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科目名	基礎柔道整復学1		学年	1 年 11 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	1単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間・15回		専任・兼任	専任	
実務経験	柔道整復師免許取得15年、専任教員7年				
一般目標(GIO)					
本科目は根拠や理論に基づいた柔道整復術を行えるようにするために、柔道整復術の歴史的背景や骨折、脱臼に関する解剖学や生理学及び骨折の基礎知識を修得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	8	2	柔道整復術および整復師の沿革	柔道整復術における歴史を体系的に説明できる。
2		15	2	柔道整復師と柔道	柔道整復術と柔道の関わりについて、歴史も踏まえて述べることができる。
3		22	2	業務範囲と心得	関係法規の内容も含め、業務範囲を説明できる。
4	5	13	2	人体に加わる力、損傷時に加わる力	日常および組織損傷時に加わる力について説明できる。
5		20	2	痛みの種類、メカニズム	痛みの種類とメカニズムを修得できる。
6		27	2	急性痛と慢性痛、痛みの評価	急性痛および慢性痛それぞれの機序を修得し、また、痛みの評価を説明できる。
7	6	3	2	痛みへのアプローチ	様々な方法を修得し、説明できる。
8		17	2	骨の形態と機能	骨の構造や機能など図示し、説明できる。
9		24	2	骨折の分類	骨の性状などを説明できる。
10	7	1	2	骨折の症状①	骨折の局所症状について説明できる。
11		8	2	骨折の症状②	骨折の全身症状について説明できる。
12		22	2	骨折の合併症	併発症、続発症、後遺症について説明できる。
13		29	2	骨学①	上肢の骨において、構造や機能を図示し、説明できる。
14	8	5	2	骨学②	体幹の骨(脊柱)において、構造や機能を図示し、説明できる。
15		19	2	骨学③	体幹の骨(胸郭)において、構造や機能を図示し、説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第6版			
	%	解剖学			
	%	生理学			
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	柔道整復実技応用1			学年	1 年 11 期生
担当者				期別	前期
単位数	1 単位			講義・実習	実技
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	柔道整復師専科教員免許所有、接骨院開業				
一般目標(GIO)					
<p>本科目は、基本包帯法を修得するために、その修得に必要な固定の目的を理解し、包帯の知識・部位別包帯法の技術を身につける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	10	1	固定 / 巻軸帯について	固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻軸帯の巻き方が修得できる。
2	4	17	1	基本包帯法	環行帯・螺旋帯・蛇行帯が修得できる。
3	4	24	1	基本包帯法	折転帯・亀甲帯・麦穂帯・三角巾施行が修得できる。
4	5	8	1	部位別包帯法	肩部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
5	5	15	1	部位別包帯法	肘部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
6	5	22	1	部位別包帯法	前腕部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。 ※コーレス骨折固定含む
7	6	5	1	部位別包帯法	手関節部・手指部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。 ※第5中手骨頸部骨折含む
8	6	19	1	部位別包帯法	大腿部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
9	6	26	1	部位別包帯法	膝関節部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
10	7	3	1	部位別包帯法	下腿部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。 ※下腿骨幹部骨折含む
11	7	10	1	部位別包帯法	足関節部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
12	7	17	1	部位別包帯法	足趾部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
13	7	24	1	部位別包帯法	背部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
14	7	31	1	部位別包帯法	肋骨部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。 ※肋骨骨折含む
15	8	7	1	包帯法	本講義で学んだ包帯法が実践できる。
評価基準			教科書		参考書
実技試験	90%		包帯固定学 改訂第2版 南江堂		
平常点	10%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	基礎柔道整復学2		学年	1 年 11 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	1 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間 15回		専任・兼任	専任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が基礎柔道整復学2において柔道整復術の基本となるものを教科書を使いながら解説する。				
一般目標(GIO)					
基礎柔道整復学2において各組織損傷の基本を理解し実際、出くわす傷病に対し適切な類別ができるようになる。 また、本科目は、柔道整復師の業務範囲である骨折・脱臼・捻挫・挫傷・打撲の基礎となることを認識し修得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	10	3	小児骨折～骨折治癒影響因子	骨折の経過を含め説明できる。
2	4	17	3	関節損傷 総論	関節の基本構造を含め説明できる。
3	4	24	3	関節損傷 捻挫	捻挫の分類・症状について説明できる。
4	5	8	3	関節損傷 脱臼	脱臼の種類・分類・合併症について説明できる。
5	5	15	3	筋損傷①	筋の基本構造を含め説明できる。
6	5	22	3	筋損傷②	筋損傷の分類について説明できる。
7	6	5	3	筋損傷③	筋損傷の症状について説明できる。
8	6	19	3	筋損傷④	筋損傷の治癒機序について説明できる。
9	6	26	3	腱損傷①	腱の基本構造を含め説明できる。
10	7	3	3	腱損傷②	腱損傷の分類について説明できる。
11	7	10	3	腱損傷③	腱損傷の症状について説明できる。
12	7	17	3	腱損傷④	腱損傷の治癒機序について説明できる。
13	7	24	3	末梢神経損傷①	末梢神経の基本構造と分類について説明できる。
14	7	31	3	末梢神経損傷②	末梢神経損傷の症状と治癒機序について説明できる。
15	8	7	3	1～14回までの復習	講義内容を再認識したか確認し学生同士で評価する。
評価基準			教科書		参考書
期末テスト	100%		柔道整復学・理論編		
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科目名	圧迫包帯学		学年	1 年 11 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	1 単位		講義・実習	実技	
時間数・授業回数	30時間 15回		専任・兼任	専任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が圧迫包帯学において臨床上、実際に使用する包帯の選別を含め基本包帯法を修得するための実技を行う。				
一般目標(GIO)					
圧迫包帯学において用途に応じた包帯の適切な選別と包帯を巻く上での熟練度の向上を目的としそれらを踏まえた上で基本包帯法(冠名包帯法)を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	12	2	冠名包帯の種類と必要性	冠名包帯適応傷病を踏まえ説明できる。
2	4	19	2	デゾー包帯①	デゾー包帯第1、2帯の必要性を説明できる。
3	4	26	2	デゾー包帯②	デゾー包帯第3帯の必要性を説明できる。
4	5	10	2	デゾー包帯③	デゾー包帯第4帯目(対側含む)の必要性を説明できる。
5	5	17	2	デゾー包帯法の確認	デゾー包帯第4帯目を自己評価させる。
6	5	24	2	ウェルポー包帯①	手順、使用包帯を説明できる。
7	5	31	2	ウェルポー包帯②	巻く時のテクニックも含め説明できる。
8	6	14	2	ウェルポー包帯③	臨床時の適応内容に関係づける。
9	6	21	2	ジュール包帯①	手順、使用包帯を説明できる。
10	7	5	2	ジュール包帯②	巻く時のテクニックも含め説明できる。
11	7	12	2	ジュール包帯③	臨床時の適応内容に関係できる。
12	7	19	2	ジュール包帯④	実際の臨床に合わせた使用方法を説明できる。
13	7	26	2	1～13項目の復習	知識内容が適切か判断できる。
14	8	2	2	冠名包帯の巻き方の復習	間違った包帯の巻き方を学生同士で評価する。
15	8	9	2	1～14項目の復習・確認	期末テストについて説明できる。
評価基準			教科書		参考書
期末テスト	80%	柔道整復学・実技編			
実習態度	20%	包帯固定学			
	%				
	%				

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科目名	柔道整復実技応用2			学年	1 年 11 期生
担当者				期 別	前期
単位数	1 単 位			講義・実習	実技
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	柔道整復師専科教員免許所有、接骨院開業				
一般目標(GIO)					
<p>本科目は、テーピングの基礎知識を理解し、身体の機能解剖を考え各スポーツ競技に合わせた基礎的なテーピング技術を身につける</p>					
s					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	10	2	テーピングの理論	目的、基礎的な知識や使用方法を説明できる。
2	4	17	2	テーピングの使用方法	テーピングのカットの仕方・貼布方法などの説明、注意事項を説明できる。アンダーラップの使い方を説明できる。
3	4	24	2	テーピングの実際 足関節部	足関節捻挫の概念・予防としてのテーピング法を説明できる。
4	5	8	2	テーピングの実際 足関節部	足関節の基本固定を説明・修得できる。
5	5	15	2	テーピングの実際 足関節部	足関節の基本固定を説明・修得できる。
6	5	22	2	テーピングの実際 膝関節部	膝部軟部組織損傷に対する、テーピングを説明・修得できる。
7	6	5	2	テーピングの実際 大腿部	大腿軟部組織損傷に対する、テーピングを説明・修得できる。
8	6	19	2	テーピングの実際 下腿部	下腿軟部組織損傷に対する、テーピングを説明・修得できる。
9	6	26	2	テーピングの実際 指部・手関節部	指部・手関節部損傷に対する、テーピングを説明・修得できる。
10	7	3	2	テーピングの実際 足部障害	足底筋膜炎などの足部障害に対する、テーピングを説明・修得できる。
11	7	10	2	テーピングの実際 足趾部	スポーツ競技での足趾部のテーピングを説明・修得できる。
12	7	17	2	テーピングの実際 肩部・腰部痛	肩部・腰部痛のテーピングを説明・修得できる。
13	7	24	2	テーピングの実際 膝関節・下腿部(アキレス腱)	膝関節・下腿部(アキレス腱)のテーピングを説明・修得できる。
14	7	31	2	テーピングの実際	各項でのまとめが説明できる。
15	8	7	2	テーピングの実際	各項でのまとめが説明できる。
評価基準			教科書		参考書
実技試験	90%		柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂		テーピングの実技と理論 文光堂
平常点	10%				プロメテウス解剖学アトラス 第2版 医学書院
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	基礎柔道整復学3		学年	1 年 11 期生	
担当者			期別	後期	
単位数	1単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間・15回		専任・兼任	専任	
実務経験	柔道整復師免許取得15年、専任教員7年				
一般目標(GIO)					
柔道整復師の業務範囲か否かの判断能力や根拠や理論に基づいた柔道整復術を修得するために、 本科目は基本的な診察手段や柔道整復の治療法である整復、固定、後療法の基礎的知識を修得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	1	1	診察時の注意点、診察手順の概説	診察の注意点や手順を説明できる。
2		8	1	身体診察の流れ、診察時期による分類	診察の一連の流れを説明できる。
3		15	1	身体診察の内容①	関節可動域や周囲計測の説明ができ、計測できる。
4		29	1	身体診察の内容②	関節可動域や周囲計測の説明ができ、計測できる。
5	11	5	1	身体診察の流れ	前回の身体診察の確認及びシミュレーションができる。
6		12	1	治療計画と施術録	治療計画の要点や施術録の取り扱いを説明できる。
7		26	1	骨折の整復法	原則、分類、原則の説明ができる。
8	12	3	1	脱臼の整復法	原則、分類、原則の説明できる。
9		10	1	軟部組織損傷の初期処置	捻挫、筋損傷、腱損傷、神経損傷それぞれの初期処置の説明できる。
10		17	1	固定法①	目的、種類、範囲、肢位、期間等の説明できる。
11		24	1	固定法②	固定後の配慮および固定具について説明できる。
12	1	7	1	後療法①	手技療法について説明できる。
13		14	1	後療法①	各手技内容について説明できる。
14		21	1	後療法②	運動療法について説明できる。
15		28	1	後療法②	各運動療法の内容について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第6版			
	%	柔道整復学・実技編 改定第2版			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	基礎柔道整復学4			学年	1 年 11 期生
担当者				期別	後期
単位数	1 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	柔道整復師専科教員所有 接骨院開業				
一般目標(GIO)					
本科目は、根拠や理論に基づいた柔道整復学を修得するために、実際の接骨院現場で使う例や国家試験の過去問題から柔道整復学が理解できる。(目的・情報・知識・手順から理解して身につける。)					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	4	2	物理療法	物理療法の定義、物理療法の安全対策を説明できる。
2	10	11	2	電気療法	電気療法の効果、注意、禁忌を説明できる。
3	10	18	2	温熱療法	電動熱療法の効果、注意、禁忌を説明できる。
4	10	25	2	温熱療法	輻射熱の効果、注意、禁忌を説明できる。
5	11	1	2	温熱療法	変換熱療法の効果、注意、禁忌を説明できる。
6	11	8	2	復習	第1回から5回の復習として説明をし、国家試験問題と関係づける事ができる。
7	11	15	2	復習	第1回から6回の復習として説明をし、国家試験問題と関係づける事ができる。
8	11	29	2	中間テストの解説	中間テスト問題についての解説できる。
9	12	6	2	光線療法	光線療法の効果、注意、禁忌が説明できる。
10	12	13	2	寒冷療法	寒冷療法の効果、注意、禁忌が説明できる。
11	12	20	2	牽引療法	牽引療法の効果、注意、禁忌が説明できる。
12	12	27	2	その他の療法	その他の療法の効果、注意、禁忌が説明できる。
13	1	10	2	指導管理	患者の環境に対する指導管理と自己管理に対する指導方法が説明できる。
14	1	17	2	復習	第1回から13回の復習として整理し、国家試験問題と関係づける事ができる。
15	1	31	2	復習	第1回から14回の復習として整理し、国家試験問題と関係づける事ができる。
評価基準			教科書		参考書
中間テスト	30%		柔道整復学理論・理論編 改訂第6版		柔道整復師国家試験問題
期末テスト	70%		(南江堂)		(公益財団法人柔道整復研修試験財団ホームページ)
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	柔道整復実技応用3			学年	1 年 11 期生
担当者				期別	後期
単位数	1単位			講義・実習	実習
時間数・授業回数	30時間・15回			専任・兼任	専任
実務経験	柔道整復師免許取得15年、専任教員7年				
一般目標(GIO)					
柔道整復術における基本的な整復方法、固定方法を修得するために、柔道整復理論で学んだ知識を適用しながら本科目では上肢骨折の整復法、固定法を修得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	4	3	鎖骨骨折 整復	適切な整復操作ができる。
2		11	3	鎖骨骨折 整復	問診、視診、触診を踏まえて整復動作ができる。
3		18	3	鎖骨骨折 整復	
4		25	3	鎖骨骨折 固定	適切な固定方法ができる。
5	11	1	3	鎖骨骨折 固定	固定及び固定後の確認ができる。
6		8	3	鎖骨骨折 固定	
7		15	3	鎖骨骨折 固定	
8		29	3	上腕骨外科頸骨折 整復	適切な整復操作ができる。
9	12	6	3	上腕骨外科頸骨折 整復	固定及び固定後の確認ができる。
10		13	3	上腕骨外科頸骨折 整復	
11		20	3	上腕骨外科頸骨折 整復	
12		27	3	上腕骨骨幹部骨折 固定	適切な固定方法ができる。
13	1	10	3	上腕骨骨幹部骨折 固定	固定及び固定後の確認ができる。
14		17	3	上腕骨骨幹部骨折 固定	
15		31	3	上腕骨骨幹部骨折 固定	
評価基準			教科書		参考書
実技試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第6版			
	%	柔道整復学・実技編 改定第2版			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	柔道整復実技応用4	学年	1 年 11 期生
担当者		期別	後期
単位数	1 単位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	柔道整復師専科教員免許所有、接骨院開業		

一般目標(GIO)

本科目は、柔道整復認定実技審査の対象となる各傷病の実技を修得するためにその修得に必要な診察・整復・検査とその評価・固定等に関する知識や理論、包帯法・テーピングを身につけ、柔道整復認定実技審査に求められる診察及び整復・検査の能力と固定の能力を修得する事ができる。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	2	1	コーレス骨折	コーレス骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
2	10	9	1	コーレス骨折	徒手整復法・神経学的検査法を説明、修得できる。
3	10	16	1	コーレス骨折	厚紙副子・クラーメルを使った、固定法を説明、修得できる。
4	10	23	1	コーレス骨折	診察・整復・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
5	10	30	1	コーレス骨折	コーレス骨折の概要等を説明できる。
6	11	6	1	第5指中手骨頸部骨折	中手骨骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
7	11	13	1	第5指中手骨頸部骨折	アルフェンスを使った、固定法を説明、修得できる。
8	12	4	1	第5指中手骨頸部骨折	診察・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
9	12	11	1	下腿骨骨幹部骨折	下腿骨骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
10	12	18	1	下腿骨骨幹部骨折	クラーメルを使った、固定法を説明、修得できる。
11	12	25	1	下腿骨骨幹部骨折	診察・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
12	1	8	1	肋骨骨折	肋骨骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
13	1	15	1	肋骨骨折	厚紙副子・さらしを使った、固定法を説明、修得できる。
14	1	22	1	肋骨骨折	診察・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
15	1	29	1	各骨折のまとめ	診察及び整復・検査の能力と固定の能力を修得し説明できる。
評価基準				教科書	参考書
実技試験	80%	柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂		プロメテウス解剖学アトラス 第2版 医学書院	
口述	10%	柔道整復学・理論編 改訂第5版 南江堂		整形外科学診断ガイド 文光堂	
平常点	10%			機能解剖学的触診技術 上肢 MEDICAL VIEW	
	%			機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 MEDICAL VIEW	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)